

平成 30 年度慶應義塾大学医学部皮膚科研修プログラム

A. 専門医研修の教育ポリシー：

研修を終了し所定の試験に合格した段階で、全人格的な皮膚科専門医として信頼され安全で標準的な医療を国民に提供できる十分な知識と技術を獲得できることを目標とする。医師としての全般的な基本能力を基盤に、皮膚疾患の高度な専門的知識・治療技能を修得し、関連領域に関する広い視野をもって診療内容を高める。皮膚科の進歩に積極的に携わり、患者と医師との共同作業としての医療の推進に努める。医師としてまた皮膚科専門医として医の倫理の確立に努め、医療情報の開示など社会的要望に応える。

B. プログラムの概要：

本プログラムは慶應義塾大学医学部皮膚科を研修基幹施設として、帝京大学ちば総合医療センター皮膚科、東京歯科大学市川総合病院皮膚科、国立がん研究センター中央病院皮膚科、国立成育医療研究センター皮膚科、国立病院機構東京医療センター皮膚科、国立埼玉病院皮膚科、都立小児総合医療センター皮膚科、稲城市立病院皮膚科、川崎市立井田病院皮膚科、川崎市立川崎病院皮膚科、さいたま市立病院皮膚科、静岡市立清水病院皮膚科、日野市立病院皮膚科、平塚市民病院皮膚科、国家公務員共済組合連合会立川病院皮膚科、済生会横浜市東部病院皮膚科、東京都済生会中央病院皮膚科、埼玉メディカルセンター皮膚科、永寿総合病院皮膚科、荻窪病院皮膚科、北里大学北里研究所病院皮膚科、神奈川県警友会けいゆう病院皮膚科、練馬総合病院皮膚科、日本鋼管病院皮膚科を研修連携施設として加えた研修施設群を統括する研修プログラムである。なお、本プログラムは各研修施設の特徴を生かした複数の研修コースを設定している。(項目 J を参照のこと)

C. 研修体制：

研修基幹施設：慶應義塾大学医学部皮膚科

研修プログラム統括責任者（指導医）：天谷雅行診療科長

専門領域：皮膚科一般、自己免疫性水疱症、アトピー性皮膚炎

指導医：海老原全 専門領域：皮膚科一般、アトピー性皮膚炎、接触皮膚炎

指導医：谷川瑛子 専門領域：皮膚科一般、膠原病、皮膚腫瘍

指導医：久保亮治 専門領域：皮膚科一般、遺伝性疾患

指導医：齋藤昌孝 専門領域：皮膚科一般、爪疾患、毛髪疾患

指導医：山上淳 専門領域：皮膚科一般、自己免疫性水疱症

指導医：高橋勇人 専門領域：皮膚科一般、薬疹、接触皮膚炎

指導医：梅垣知子 専門領域：皮膚科一般、乾癬

指導医：船越建 専門領域：皮膚科一般、皮膚腫瘍

指導医：大内健嗣 専門領域：皮膚科一般、薬疹、皮膚病理、レーザー

指導医：栗原佑一 専門領域：皮膚科一般、自己免疫水疱症

指導医：平井郁子 専門領域：皮膚科一般、皮膚腫瘍

施設特徴：専門外来として、自己免疫病外来、アトピー外来、腫瘍外来、乾癬外来、蕁麻疹アレルギー外来、皮膚膠原病外来、爪外来、毛髪外来、遺伝病外来、レーザー外来、光線外来を設けており、外来患者数は1日平均160名にのぼり、豊富な経験を積むことが可能。また、年間手術件数は1100件を超える。研究の面では、いくつかのグループを作り、指導医との連携を強め、多様な研究結果を創出している。

研修連携施設：帝京大学ちば総合医療センター皮膚科

所在地：千葉県市原市姉崎町 3426-3

プログラム連携施設担当者（指導医）：早川和人（皮膚科教授）

研修連携施設：東京歯科大学市川総合病院皮膚科

所在地：千葉県市川市菅野 5-11-13

プログラム連携施設担当者（指導医）：高橋慎一（皮膚科教授）

指導医：河野道良

研修連携施設：国立がん研究センター中央病院皮膚科

所在地：東京都中央区築地 5-1-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：山崎直也（医長）

研修連携施設：国立成育医療研究センター皮膚科

所在地：東京都世田谷区大蔵 2-10-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：吉田和恵

研修連携施設：国立病院機構東京医療センター皮膚科

所在地：東京都目黒区東が丘 2-5-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：吉田哲也（医長）

研修連携施設：国立埼玉病院

所在地：埼玉県和光市諏訪 2-1

プログラム連携施設担当者（指導医）：中捨克輝（部長）

指導医：清水智子

研修連携施設：都立小児総合医療センター皮膚科

所在地：東京都府中市武蔵台 2-8-29

プログラム連携施設担当者（指導医）：定平知江子（医長）

研修連携施設：稲城市立病院皮膚科

所在地：東京都稲城市大丸 1171

プログラム連携施設担当者（指導医）：三宅亜矢子（部長）

研修連携施設：川崎市立井田病院皮膚科
所在地：神奈川県川崎市中原区井田 2-27-1
プログラム連携施設担当者（指導医）：安西秀美（部長）

研修連携施設：川崎市立川崎病院皮膚科
所在地：神奈川県川崎市川崎区新川通 12-1
プログラム連携施設担当者（指導医）：宮川俊一（部長）
指導医：渡辺絵美子

研修連携施設：さいたま市立病院皮膚科
所在地：埼玉県さいたま市緑区三室 2460
プログラム連携施設担当者（指導医）：齋藤京（部長）

研修連携施設：静岡市立清水病院皮膚科
所在地：静岡県静岡市清水区宮加三 1231
プログラム連携施設担当者（指導医）：横山知明（部長）

研修連携施設：日野市立病院皮膚科
所在地：東京都日野市多摩平 4-3-1
プログラム連携施設担当者（指導医）：小菅治彦（部長）

研修連携施設：平塚市民病院皮膚科
所在地：神奈川県平塚市南原 1-19-1
プログラム連携施設担当者（指導医）：藤尾由美（部長）
指導医：木花いづみ

研修連携施設：国家公務員共済組合連合会立川病院皮膚科
所在地：東京都立川市錦町 4-2-22
プログラム連携施設担当者（指導医）：稲積豊子（部長）
指導医：馬場裕子

研修連携施設：済生会横浜市東部病院皮膚科
所在地：神奈川県横浜市鶴見区下末吉 3-6-1
プログラム連携施設担当者（指導医）：畑 康樹（部長）
指導医：西本周平

研修連携施設：東京都済生会中央病院皮膚科
所在地：東京都港区三田 1-4-17
プログラム連携施設担当者（指導医）：木村佳史（医長）

研修連携施設：埼玉メディカルセンター皮膚科
所在地：埼玉県さいたま市浦和区北浦和 4-9-3
プログラム連携施設担当者（指導医）：杉 俊之（部長）

研修連携施設：永寿総合病院皮膚科
所在地：東京都台東区東上野 2-23-16
プログラム連携施設担当者（指導医）：和田直子（部長）

研修連携施設：荻窪病院皮膚科
所在地：東京都杉並区今川 3-1-24
プログラム連携施設担当者（指導医）：布袋祐子（部長）

研修連携施設：北里大学北里研究所病院皮膚科
所在地：東京都港区白金 5-9-1
プログラム連携施設担当者（指導医）：佐藤友隆（部長）

研修連携施設：神奈川県警友会けいゆう病院皮膚科
所在地：神奈川県横浜市西区みなとみらい 3-7-3
プログラム連携施設担当者（指導医）：河原由恵（部長）
指導医：笠井弘子

研修連携施設：練馬総合病院皮膚科
所在地：東京都練馬区旭丘 1-24-1
プログラム連携施設担当者（指導医）：横内麻里子（部長）

研修連携施設：日本鋼管病院皮膚科
所在地：神奈川県川崎市川崎区鋼管通 1-2-1
プログラム連携施設担当者（指導医）：石橋正史（部長）

研修基幹施設には、専攻医の研修を統括的に管理するための組織として以下の研修管理委員会を置く。研修管理委員会委員は研修プログラム統括責任者、プログラム連携施設担当者、指導医、他職種評価に加わる看護師等で構成される。研修管理委員会は、専攻医研修の管理統括だけでなく専攻医からの研修プログラムに関する研修評価を受け、施設や研修プログラム改善のフィードバックなどを行う。専攻医は十分なフィードバックが得られない場合には、専攻医は日本専門医機構皮膚科領域研修委員会へ意見を提出できる。

研修管理委員会委員

委員長：天谷雅行（慶應義塾大学病院皮膚科教授）
委員：海老原全（慶應義塾大学病院皮膚科准教授）
：谷川瑛子（慶應義塾大学病院皮膚科講師）
：齋藤昌孝（慶應義塾大学病院皮膚科講師）

- : 船越建 (慶應義塾大学病院皮膚科講師)
- : 宮川俊一 (川崎市立川崎病院皮膚科部長)
- : 畑康樹 (済生会横浜市東部病院皮膚科部長)
- : 木村佳史 (東京都済生会中央病院皮膚科医長)
- : 早川和人 (帝京大学ちば総合医療センター皮膚科皮膚科教授)
- : 高橋慎一 (東京歯科大学市川総合病院皮膚科皮膚科教授)
- : 山崎直也 (国立がん研究センター中央病院皮膚科医長)
- : 吉田和恵 (国立成育医療研究センター皮膚科医長)
- : 吉田哲也 (国立病院機構東京医療センター皮膚科医長)
- : 中捨克輝 (国立埼玉病院皮膚科医長)
- : 定平知江子 (都立小児総合医療センター皮膚科医長)
- : 三宅亜矢子 (稲城市立病院皮膚科部長)
- : 安西秀美 (川崎市立井田病院皮膚科部長)
- : 齋藤 京 (さいたま市立病院皮膚科部長)
- : 横山知明 (静岡市立清水病院皮膚科部長)
- : 小菅治彦 (日野市立病院皮膚科部長)
- : 藤尾由美 (平塚市民病院皮膚科部長)
- : 稲積豊子 (立川病院皮膚科部長)
- : 杉 俊之 (埼玉メディカルセンター皮膚科部長)
- : 和田直子 (永寿総合病院皮膚科部長)
- : 布袋祐子 (荻窪病院皮膚科部長)
- : 佐藤友隆 (北里大学北里研究所病院皮膚科部長)
- : 河原由恵 (神奈川県警友会けいゆう病院皮膚科部長)
- : 横内麻里子 (練馬総合病院皮膚科部長)
- : 石橋正史 (日本鋼管病院皮膚科科長)
- : 齋藤八重子 (慶應義塾大学病院外来看護師主任)

前年度診療実績：皮膚科

	1日平均外来患者数	1日平均入院患者数	局所麻酔年間手術数 (含生検術)	全身麻酔年間手術数	指導医数
慶應義塾大学医学部皮膚科	161.2	15.1	1050	64	16
帝京大学ちば総合医療センター	40	5	363	5	1
東京歯科大学市川総合病院	34.1	6	441	0	2
国立がん研究センター中央病院	46	20	237	96	3
国立成育医療研究センター	23.9	0.2	45	46	1
国立病院機構東京医療センター	62.8	3.8	624	11	1

国立埼玉病院	37	1.5	376	10	1
都立小児総合医療センター	20	0	8	0	1
稲城市立病院	65	6.5	444	23	1
川崎市立井田病院	40.6	4	232	11	1
川崎市立川崎病院	82.2	7.6	514	6	2
さいたま市立病院	59.5	3.3	438	10	1
静岡市立清水病院	66.7	6.7	800	40	1
日野市立病院	51.0	2.0	416	3	1
平塚市民病院	95	9.8	682	21	2
国家公務員共済組合連 合会立川病院	52	8	486	22	2
済生会横浜市東部病院	50	2	350	24	2
東京都済生会中央病院	68	5	580	13	1
埼玉メディカルセンタ ー	75	1.3	250	0	1
永寿総合病院	39.4	1.7	149	2	1
荻窪病院	62.7	6.3	347	6	1
北里大学北里研究所病 院	57.8	4.4	268	8	1
神奈川県警友会けいゆ う病院	95	8	515	10	2
練馬総合病院	50	5	300	5	1
日本鋼管病院	60	6	240	8	1
合計	1494.9人	139.2人	10155件	444件	48人

D. 募集定員：9人

E. 研修応募者の選考方法：

書類審査、小論文および面接により決定（慶應義塾大学医学部皮膚科のホームページ等で公表する）。また、選考結果は、本人あてに別途通知する。なお、応募方法については、応募申請書を慶應義塾大学医学部皮膚科のホームページよりダウンロードし、履歴書と併せて提出すること。

F. 研修開始の届け出：

選考に合格した専攻医は、研修開始年の3月31日までにプログラム登録申請書（仮称）に必要事項を記載のうえ、プログラム統括責任者の署名捺印をもらうこと。その後、同年4月30日までに皮膚科領域専門医委員会（hifusenmon@dermatol.or.jp）に通知すること。

G. 研修プログラム 問い合わせ先

慶應義塾大学医学部皮膚科
海老原全

TEL：03-5363-3823

H. 到達研修目標 :

本研修プログラムには、いくつかの項目において、到達目標が設定されている。別冊の研修カリキュラムと研修の記録を参照すること。特に研修カリキュラムの p. 26～27 には経験目標が掲示しているので熟読すること。

I. 研修施設群における研修分担 :

それぞれの研修施設の特徴を生かした皮膚科研修を行い、研修カリキュラムに掲げられた目標に従って研修を行う。

1. 慶應義塾大学医学部皮膚科では医学一般の基本的知識技術を習得させた後、難治性疾患、稀な疾患などより専門性の高い疾患の診断・治療の研修を行う。さらに医師としての診療能力に加え、教育・研究などの総合力を培う。また、少なくとも1年間の研修を行う。
2. 帝京大学ちば総合医療センター皮膚科、東京歯科大学市川総合病院皮膚科、国立成育医療研究センター皮膚科、国立病院機構東京医療センター皮膚科、国立埼玉病院皮膚科、都立小児総合医療センター皮膚科、稲城市立病院皮膚科、川崎市立井田病院皮膚科、川崎市立川崎病院皮膚科、さいたま市立病院皮膚科、静岡市立清水病院皮膚科、日野市立病院皮膚科、平塚市民病院皮膚科、国家公務員共済組合連合会立川病院皮膚科、済生会横浜市東部病院皮膚科、東京都済生会中央病院皮膚科、埼玉メディカルセンター皮膚科、永寿総合病院皮膚科、荻窪病院皮膚科、北里大学北里研究所病院皮膚科、神奈川県警友会けいゆう病院皮膚科、練馬総合病院皮膚科、日本鋼管病院皮膚科で、急性期疾患、頻繁に関わる疾病に適切に対応できる総合的な診療能力を培い、地域医療の実践、病診連携を習得し、慶應義塾大学医学部皮膚科の研修を補完する。国立がん研究センター中央病院皮膚科では、主に皮膚悪性腫瘍に対する手術療法、化学療法、終末期医療を習得する。これらの連携研修施設のいずれかで、原則として少なくとも1年間の研修を行う。

J. 研修内容について**1. 研修コース**

本研修プログラムでは、以下の研修コースをもって皮膚科専門医を育成する。

ただし、研修施設側の事情により希望するコースでの研修が出来ないこともあり得る。また、記載されている異動時期についても研修施設側の事情により変更となる可能性がある。

コース	研修 1年目	研修 2年目	研修 3年目	研修 4年目	研修 5年目
a	基幹	連携	連携	基幹	基幹
b	基幹	連携	連携	連携	基幹
c	基幹	連携	連携	連携	連携

d	基幹・連携	連携	連携	基幹・連携	基幹
e	基幹・連携	連携	連携	連携	基幹
f	連携	連携	基幹	基幹	連携
g	連携	連携	連携	基幹	基幹
h	連携	連携	連携	連携	基幹
i	基幹	連携	連携	大学院	大学院
j	基幹	大学院	大学院	大学院	大学院/連携
k	連携	大学院	大学院	大学院	大学院
l	基幹/大学院	基幹/大学院	大学院	大学院	連携
m	基幹	連携	連携	基幹	連携（がんセンター）

a-e：研修基幹施設を中心に連携施設を含め研修する基本的なコース。最終年次に大学で後輩の指導を行うことにより自らの不足している部分を発見し補う。連携施設は原則として2年ごとで異動するが、諸事情により1年間で交代もあり得る。

f-h：研修連携施設から研修を開始するコース。

i-j：研修後半に、博士号取得のための研究を開始するプログラム。博士号取得の基本的コース。

k-l：研究と臨床研修を両立して進めるいわゆる MD-PhD コースのプログラム

m：研修後半にがんセンターにおける研修を行う腫瘍特化コース

2. 研修方法

1) 慶應義塾大学医学部皮膚科

外来：診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。一般的な皮膚疾患に関して、実際に目で見て、診断できる能力を身につけ、治療の実際についても習得する。稀少な疾患については皮膚生検や種々の検査を行い、カンファレンスで症例提示を行い、教室員全員からの評価を受けるとともに、一つの疾患、症例を深く掘り下げて診ていく習慣、能力を習得する。

病棟：病棟医長の下数チームの診療チームを構成する。専攻医は指導医の下担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得する。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週の病棟カンファレンスで症例発表を行い、評価を受ける。

外来と病棟の担当は3ヶ月ごとに定期的に交代し、外来、病棟と異なった皮膚科診療力を身につけられるようにする。

抄読会では1回/月 英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講

習会に定期的に参加する。年に2編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表（外来）

	月	火	水	木	金	土	日
午前	初診外来	初診外来	初診外来	初診外来	初診外来	初診外来	
午後	特殊外来 皮膚生検	総合診断 外来 カンファレンス	特殊外来 手術	特殊外来 手術	特殊外来 手術	特殊外来	

研修の週間予定表（病棟）

	月	火	水	木	金	土	日
午前	病棟	病棟 回診	病棟	病棟	病棟	病棟 病棟カンファ レンス	病棟
午後	病棟 全麻手術	総合診断 外来 カンファレンス	病棟 手術	病棟 手術	病棟 手術	病棟	

2) 連携施設

帝京大学ちば総合医療センター皮膚科：

当科は大学病院分院であるとともに地域の中核病院であり、周辺の病院、クリニックから多数の重症患者が紹介されてくる。他科との連携のもと、指導医とともにこれらの症例の診断、治療を行い、高度な皮膚科診療を習得、実践する。また植皮などの手術法、センチネルリンパ節生検の手技を習得する。慶應大学医学部皮膚科のカンファレンスに月2回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に3回以上筆頭演者として学会発表を行うとともに発表内容を論文化する。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	手術	外来	外来	外来	外来 病棟	
午後	病棟 手術	手術	外来 病棟カンファ レンス	病棟 手術	病棟 手術		

東京歯科大学市川総合病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法および診断や治療が困難な症例の対処法を習得する。慶應義塾大学医学

部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	病棟	外来	外来	外来*	
午後	病棟手術 カンファレンス	カンファレンス	外来 手術	病棟 手術	病棟	宿直*	

※1～2回/月

※宿直は1～2回/月を予定

国立がん研究センター中央病院皮膚腫瘍科：

外来：初診患者の予診をとり、診断、治療計画を立てる。診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験する。

病棟：専攻医は各スタッフをリーダーとする診療チームの構成メンバーとなる。専攻医は入院患者全体の状態を把握するとともに、担当患者については各スタッフによって診察の仕方、検査の方法、外科的治療、内科的治療、放射線治療など高度な医療技術を学び習得する。毎日の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受ける。毎週月曜に行われる手術カンファレンス、木曜に行われる腫瘍内科カンファレンス、定期的に行われる皮膚病理カンファレンス、放射線カンファレンスでプレゼンテーションを行い、評価を受ける。抄読会では月1回程度、英文論文を紹介する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。また、皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。年に1編以上筆頭著者で英語論文を作成することを目標とする。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	カンファレンス 手術 外来	手術	カンファレンス 手術 外来	カンファレンス1 カンファレンス2 外来	カンファレンス 抄読会 外来		
午後	外来 カンファレンス	手術	外来 カンファレンス1 カンファレンス2	外来 手術	外来		

※当直は1回/月を予定

国立成育医療研究センター皮膚科：

当該施設は全国 6 か所に設置されたナショナルセンターの使命として病院と研究所が一体となって疾患克服のための研究と診療を行う病院である。一方で成育医療の担い手の教育機関でもあるので、当該プログラムにおいては指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医としての位置づけで、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。慶應義塾大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週 1 回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	手術	外来		
午後	病棟 外来 皮膚生 検	病棟 カンファレンス	病棟 外来	病棟 外来 皮膚生 検	病棟 外来 カンファレンス 褥瘡回 診	オンコール※	オンコール※

※週末オンコール（電話対応と有事診察）は 1 回／月以上を予定

独立行政法人国立病院機構東京医療センター皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。慶應義塾大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週 1 回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	カンファレンス 病棟 手術	外来 病棟	日直※	
午後	外来 病棟 手術	外来 病棟	外来 病棟	病棟	外来 病棟	日直※	

※ 土曜日日直は 1 回／月を予定

東京都立小児総合医療センター皮膚科：

指導医の下、小児医療の基幹病院の勤務医として、乳幼児を中心とした皮膚疾患の診療、処置、レーザー治療、皮膚生検・手術を習得する。慶應義塾大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週 1 回参加し学習する。必須の講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、

学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	診療業務 (外来・入院)	診療業務 (外来・入院)	診療業務 (外来・入院)	診療業務 (外来・入院)	診療業務 (外来・入院)		
午後	WOC回診 診療業務 (外来・入院)	新生児 皮膚健診 カンファレンス		病棟回診 カンファレンス 診療業務 (外来・入院)	新生児 皮膚健診		

稲城市立病院：

埼玉南西部保健医療圏の中核病院において難治性皮膚疾患の外来診療、病棟管理を習得する。手術・処置などの外科的手技も、主体的に行えるレベルまで研修指導を行う。病院皮膚科として重要な病診連携・病病連携の促進にも取り組む。学術的には慶應義塾大学皮膚科のカンファレンスや皮膚科関連の学会に積極的に参加し、学会発表、論文執筆も指導医のもと、一定数を完遂できるようにする。連携施設：国立病院機構埼玉病院皮膚科。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術	外来	外来	外来	外来		
午後	病棟	病棟	病棟 手術	病棟 カンファレンス	病棟		

川崎市立井田病院皮膚科：

指導医の下、地域の中核病院の勤務医として、第一線の皮膚科臨床を習得する。慶應義塾大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。日本皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	病棟	病棟 手術		
午後	病棟手術	カンファレンス	病棟検査	外来検査	外来		

川崎市立川崎病院：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。慶應大学医学部皮膚科のカンファレンスに週1回参加し学習する。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会、院内感染対策講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	病棟	外来	病棟	外来		
午後	褥瘡回診	慶應カンファレンス	手術	皮膚科カンファレンス	病棟往診 臨床カンファレンス		

※宿直は2～3回/月を予定

さいたま市立病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。慶應義塾大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表、年1本以上の論文作成を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 /病棟	病棟 /外来	外来 /病棟	外来 /病棟	病棟 /外来		
午後	外来 手術	特殊外来 慶應カンファレンス	手術	特殊外来 手術	病棟（回診） 院内カンファレンス		

※日直・宿直は2～3回/月

静岡市立清水病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、検査手技、手術法を習得する。慶應義塾大学医学部皮膚科のカンファレンスに月1-2回参加し学習する。必須の講習会を受講し、年に4回以上筆頭演者として学会発表を行う。学会発表症例は指導医指導の論文作成する（日本語/英語）。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナー、地域開業医との合同勉強会等に積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	病棟		

午後	外来 カンファレンス	病棟 慶應カンファ レンス	病棟	外来 カンファレンス	手術		

※宿直は月 1～2 回を予定

日野市立病院皮膚科：

指導医の下、南多摩医療圏の中核病院の皮膚科勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。慶應義塾大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会、感染対策講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	病棟	外来	外来	外来		
午後	手術	外来 カンファ レンス	病棟	手術	外来・生 検		

平塚市民病院：

2名の指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得し、common disease から重症皮膚疾患まで、適切な治療を行える能力を身につける。週 1 回行っている、病棟でのスタッフとの合同カンファレンス、生検・手術標本を供覧しながらの皮膚科カンファレンスでは、担当患者のプレゼンテーションを担当し、疾患について、深く学習する機会を多くもつ。必須の講習会を受講し、出来る限り多くの学会で（年 3～4 回程度）は筆頭演者として学会発表を行い、論文作成もあわせて行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会や倫理委員会の研修など定期的に参加する。

また、褥瘡対策委員会のおこなう褥瘡回診に参加する。研修指定病院であるので、年 1/3～1/2 は、研修医が皮膚科研修でローテーションするので、上級医師として、研修医の指導を行い、医師としての教育の仕事の一旦を担う。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 (再診)	病棟院内 往診担当	外来 (初診)	外来 (再診)	外来 (初診)		
午後	検査 特殊外来 病棟業務	外来手術 担当(4～ 5件担当)	病棟総回 診カンファレ ンス	中央手術 (全身麻 酔手術)	検査 特殊外来 病棟業務		

				術者・助手) 病棟業務			
--	--	--	--	-------------	--	--	--

※ 当直は、月 1 回内科系当直を担当（内科全般で、CPA や重症の対応も必要なことが多い）

年回当院皮膚科の外来手術は、300～350 件。最初は指導医の助手あるいは指導のもとでの手術を行うが、1 年経過した時点で、小手術については、技術を習得。2 年目以降はひとりで年間 100 件以上の外来手術をおこなう。

入院手術については、年間 80 件前後（うち全身麻酔は 20～30 件）、指導医の助手として種々の手術に参加し、2 年経過した時点で、悪性腫瘍拡大切除・分層植皮術、センチネルリンパ節生検、重症軟部組織感染症に対するデブリドマンなどの、皮膚科の大きな手術についても、技術を習得し、植皮術程度は、自身で執刀できるようになることを、目標とする。

国家公務員共済組合連合会立川病院皮膚科：

当院は多摩地区の、ほぼ全科を網羅した中核病院であり、地域支援病院として救急や入院患者を積極的に受け入れている。3 人体制であり、重篤、稀少を問わずあらゆる皮膚疾患への対応が可能である。病院勤務医として、全ての皮膚疾患に対して、苦手意識を持たずに、診断、治療ができるようにする。また皮膚症状のみに捉われず、常に全身状態にも気を払い、他科疾患の存在を見落とさないような心構えも身につける。一般的な処置や手術はもちろん、局所皮弁や植皮術、リンパ節生検の手技を習得する。また入院、救急医療を通して、医師として最低限身につけておくべき全身管理についても学ぶ。慶應義塾大学医学部皮膚科のカンファレンスに週 1 回参加し学習する。専門医取得の為の皮膚科学会主催の必須講習会を受講し、年に 2 回以上筆頭演者として学会発表を行い、論文執筆する。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	病棟	外来	手術 病棟	外来	外来	外来	
午後	外勤	慶應カンファ レンス	手術	病棟	カンファレンス		

※ 宿直は 1～2 回/月を予定

済生会横浜市東部病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、恵まれた手術室、救急医療を主に担う病院機能、地域開業医先生方との密な連携から、第一線の救急医療、処置、手術法、難治な皮膚疾患に対しての適切な診断、治療を行うことを習得する。慶應義塾大学皮膚科のカンファレンス、抄読会にも週 1 回参加して学習

する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟		
午後	病棟手術	慶應カンファ レンス	手術	外来	褥瘡回診 外来		

東京都済生会中央病院皮膚科：
指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。特殊外来としてアレルギー、付属器疾患を対象にしたものがあり、研修中にローテーションする。慶應義塾大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習するほか、済生会中央病院皮膚科のカンファレンスにも参加する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会、感染対策講習会等に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 病棟	外来	外来	外来 病棟	外来 病棟	外来	
午後	病棟回診 手術 レーザー	パッチテスト カンファレンス	病棟毛髪 外来	手術レーザー	手術カンファ レンス		

※ 宿直は2回/月を予定

埼玉メディカルセンター皮膚科：
指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。日常ありふれた疾患もなるべく多く経験する。慶應義塾大学医学部皮膚科のカンファレンスに週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	外来	外来		

午後	病棟手術 カンファレンス	カンファレンス	病棟	外来	病棟手術		
----	-----------------	---------	----	----	------	--	--

永寿総合病院皮膚科：

指導医の下、地域の中核病院の勤務医として、救急患者対応、高齢者医療を含む第一線の皮膚科臨床を習得する。慶應義塾大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。日本皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来	外来	病棟	病棟手術	外来 病棟	
午後	病棟手術	カンファレンス	病棟検査	外来検査	外来		

荻窪病院皮膚科：

指導医の下、急性期病院、HIV指定診療拠点病院、血友病線タップなどの特徴を有し、地域医療の中核病院でもある本院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。また、パッチテスト、皮膚生検、光線療法、膠原病などを扱う特殊外来にて皮膚科の専門知識を吸収する。杏林大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	
午後	病棟特殊 外来カンファ レンス	病棟特殊 外来	病棟特殊 外来	病棟手術 カンファレンス	病棟・褥 瘡回診特 殊外来		

北里大学北里研究所病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の救急医療、処置、手術法を習得する。慶應義塾大学医学部皮膚科の外来研修、カンファレンス、抄読会のいずれかに週1回または隔週で参加し学習する。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	病棟	外来	外来	外来	外来	
午後	病棟生 検	カンファレンス	外来	手術	外来		

※宿直は2回/月を予定

神奈川県警友会けいゆう病院：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として皮膚科疾患について網羅的に経験し診断、治療決定に携わる。外来管理可能な common disease から入院治療を要する比較的重症までの疾患について主治医となる。また第一線の皮膚科救急医療や一般的な処置、手術方法を習得する。他科入院患者の褥瘡処置や皮疹を有する他科疾患の診断・治療にも携わる。院外での研修としては週1回の慶應義塾大学医学部皮膚科カンファレンスへの参加、皮膚科関連学会・学術講演会・セミナーへの積極的参加、皮膚科学会主催の必須講習会受講、年に3回以上筆頭演者としての学会発表などがある。また病院が実施する医療安全講習会、感染対策講習会等に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	病棟	外来	外来	病棟	病棟*	
午後	外来手術 病棟他科 往診	大学にて 研修	外来手術 病棟他科 往診	中央手術 室手術カ ンファレンス	病棟他科 往診		

※土曜日は隔週*

※宿直：2～3回/月を予定

練馬総合病院皮膚科：

指導医の下、地域医療の中核病院の勤務医として、第一線の皮膚診療、処置、手術法を習得する。慶應義塾大学医学部皮膚科のカンファレンスに週1回参加し学習する。必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	病棟	外来 手術	病棟	外来		
午後	病棟手術 カンファレンス	慶應カンファ レンス	手術	外来	病棟		

日本鋼管病院皮膚科：

指導医の指導の下、地域医療の中核病院の勤務医として、外来診療、救急医療、処置、手術を行う。診療チームを構成して、入院診療を行う。慶應義塾大学医学部皮膚科のカンファレンス、抄読会に週1回参加し学習する。皮膚科学会主催の必須の講習会を受講し、年に2回以上筆頭演者として学会発表を行う。年に1編以上筆頭著者で論文を作成することを目標とする。皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加する。病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加する。

研修の週間予定表（常勤医モデル）

	月	火	水	木	金	土	日
午前	病棟	外来	病棟	外来	外来	外来 ^{**}	
午後	外来	外来カンファレンス	カンファレンス	手術	手術	宿直 ^{**}	

※宿直は2回/月を予定

※外来（土曜日）は1～2回/月を予定

研修の週間予定表（後期研修医モデル）

	月	火	水	木	金	土	日
午前	外来	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	外来 病棟	外来 ^{**}	
午後	外来	カンファレンス	手術カンファレンス	外来	手術	宿直 ^{**}	

※宿直は2回/月を予定

※外来（土曜日）は1～2回/月を予定

3) 大学院(臨床)

基本的に日中は大学病院にて1)と同様に研修し、17時以降、大学院講義出席、臨床研究、論文作成等を行う。

4) 大学院(研究)

皮膚科以外の臨床教室、基礎教室にて皮膚科に関連する研究を行う。この期間、大学病院での研修および達成度評価・年次総合評価は不要とする。

研修の年間予定表

月	行事予定
4	1年目：研修開始。皮膚科領域専門医委員会に専攻医登録申請を行う。 2年目以降：前年度の研修目標達成度評価報告を行う。
5	
6	日本皮膚科学会総会（開催時期は要確認）

7	
8	研修終了後：皮膚科専門医認定試験実施
9	
10	試験合格後：皮膚科専門医認定
11	
12	研修プログラム管理委員会を開催し，専攻医の研修状況の確認を行う (開催時期は年度によって異なる)
1	
2	5年目：研修の記録の統括評価を行う。
3	当該年度の研修終了し，年度評価を行う。 皮膚科専門医受験申請受付

K. 各年度の目標：

- 1、2年目：主に慶應義塾大学医学部皮膚科において、カリキュラムに定められた一般目標、個別目標（1. 基本的知識 2. 診療技術 3. 薬物療法・手術・処置技術・その他治療 4. 医療人として必要な医療倫理・医療安全・医事法制・医療経済などの基本的姿勢・態度・知識 5. 生涯教育）を学習し、経験目標（1. 臨床症例経験 2. 手術症例経験 3. 検査経験）を中心に研修する。
 - 3年目：経験目標を概ね修了し、皮膚科専門医に最低限必要な基本的知識・技術を習得し終えることを目標にする。
 - 4、5年目：経験目標疾患をすべて経験し、学習目標として定められている難治性疾患、稀な疾患など、より専門性の高い疾患の研修を行う。3年目までに習得した知識、技術をさらに深化・確実なものとし、生涯学習する方策、習慣を身につけ皮膚科専門医として独立して診療できるように研修する。専門性を持ち臨床に結びついた形での研究活動に携わり、その成果を国内外の学会で発表し、論文を作成する。さらに後輩の指導にもあたり、研究・教育が可能な総合力を持った人材を培う。
- 毎年度：日本皮膚科学会主催教育講習会を受講する。また、東京地方会には可能な限り出席する。各疾患の診療ガイドラインを入手し、診療能力の向上に努める。PubMedなどの検索や日本皮膚科学会が提供するE-ラーニングを受講し、自己学習に励む。

L. 研修実績の記録：

1. 「研修の記録」を日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし、利用すること。
2. 「研修の記録」の評価票に以下の研修実績を記録する。
経験記録（皮膚科学各論、皮膚科的検査法、理学療法、手術療法）、講習会受講記録（医療安全、感染対策、医療倫理、専門医共通講習、日本皮膚科学会主催専攻医必須講習会、専攻医選択講習会）、学術業績記録

(学会発表記録、論文発表記録)。

3. 専門医研修管理委員会はカンファレンスや抄読会の出席を記録する。
4. 専攻医、指導医、総括プログラム責任者は「研修の記録」の評価票を用いて下記 (M) の評価後、評価票を毎年保存する。
5. 「皮膚科専門医研修マニュアル」を日本皮膚科学会ホームページからダウンロードし、確認すること。特に p. 15～16 では「皮膚科専攻医がすべきこと」が掲載されているので注意すること。

M. 研修の評価：

診療活動はもちろんのこと、知識の習熟度、技能の修得度、患者さんや同僚、他職種への態度、学術活動などの診療外活動、倫理社会的事項の理解度などにより、研修状況を総合的に評価され、「研修の記録」に記録される。

1. 専攻医は「研修の記録」のA. 形成的評価票に自己評価を記入し、毎年3月末までに指導医の評価を受ける。また、経験記録は適時、指導医の確認を受け確認印をもらう。
2. 専攻医は年次総合評価票に自己の研修に対する評価、指導医に対する評価、研修施設に対する評価、研修プログラムに対する評価を記載し、指導医に提出する。指導医に提出しづらい内容を含む場合、研修プログラム責任者に直接口頭、あるいは文書で伝えることとする。
3. 指導医は専攻医の評価・フィードバックを行い年次総合評価票に記載する。また、看護師などに他職種評価を依頼する。以上を研修プログラム責任者に毎年提出する。
4. 研修プログラム責任者は、研修プログラム管理委員会を開催し、提出された評価票を元に次年度の研修内容、プログラム、研修環境の改善を検討する。
5. 専攻医は研修修了時まで全ての記載が終わった「研修の記録」、経験症例レポート15例、手術症例レポート10例以上をプログラム統括責任者に提出し、総括評価を受ける。
6. 研修プログラム責任者は、研修修了時に研修到達目標のすべてが達成されていることを確認し、総括評価を記載した研修修了証明書を発行し、皮膚科領域専門医委員会に提出する。

N. 研修の休止・中断、異動：

1. 研修期間中に休職等により研修を休止している期間は研修期間に含まれない。
2. 研修期間のうち、産休・育休に伴い研修を休止している期間は最大6ヶ月までは研修期間に認められる。なお、出産を証明するための添付資料が別に必要となる。
3. 諸事情により本プログラムの中断あるいは他の研修基幹施設のプログラムへ異動する必要がある場合、すみやかにプログラム統括責任者に連絡し、中断あるいは異動までの研修評価を受けること。

○. 労務条件、労働安全：

労務条件は勤務する病院の労務条件に従うこととする。

給与、休暇等については各施設のホームページを参照、あるいは人事課に問い合わせること。なお、当院における当直はおおむね2～3回/月程度である。

2017年6月27日
慶應義塾大学医学部皮膚科
専門研修プログラム統括責任者
天谷雅行